

## 蜂さされ防止の一考察

松本・梓担当区事務所 ○ 二村吉二  
市 邦昭

はじめに

近年労働災害の特色として蜂さされ災害が全国各地で発生しており、毎年多くの犠牲者が出ている。

国有林でも昭和61年度1件、昭和62年度3件の死亡災害が発生している。

私達の職場では以前から養蚕の網を利用して防蜂網を作り使用してきたが、最近の重大災害を見るにつけ、急速に関心が高まり危機感をおぼえているのが現状である。

梓担当区の過去5カ年間ににおける蜂さされの災害は、昭和61年度から平成2年度までは毎年1件から3件の範囲で被災していたが、この表でもわかるように蜂の活動が最盛期といわれている、7月から9月の間に発生している。

また、造林作業では最もつらい炎天下での下刈作業の時期に被災している。

万が一災害をうけた場合は応急処置後直ちに医者へ行くよう指導を受けているが、山間での作業で一刻を争う災害であるので、安全懇談会の中で何か対策はないかと相談

した結果、蜂の生息状態を知ることが第一義と考え調査を始めた。

### 1. 生息調査

蜂の災害を無くすには、春、早く女王蜂を捕殺することによって巣の減少や、蜂の減少につながるのではないかと調査を始めた。

生息調査は営林署では、昭和62年度から63年度は隣りの稲核担当区部内の大白川団地で始めた。

平成元年度から今年度までは、私達の作業地である水沢山団地、金松寺山団地及び、唐沢山団地で行ったが、唐沢山団地は今年初めて設置したが、容器全部が

表-1 蜂さされによる被災件数

年度	件数	作業種	時期
S61	(3)	下刈2 除伐1	7.9月
S62	2	下刈2	7月
S63	(1)	下刈1	7月
H 1	(1)	下刈1	7月
H 2	3	下刈2. 除伐1	7.9月
H 3	0		

※ ( ) は、公務上の疾病災害  
扱いしないもの。

熊にやられてしまい調査が出来なかった。

調査地はその年の作業地の周辺を主体とし、蜂の好むと思われる、砂糖、酒、酢の3種を混合し、1升瓶や、ビール瓶に約4分の1程度入れ、幼齡林や、天然林に設置し4日から7日毎に調査をしたが、蜂の活動は天候に大きく左右され誘引捕殺に差があった。

大白川団地は設置時期が昭和62年度は7月、63年度6月下旬とすでに蜂の活動期であり期待したほどの蜂の誘引捕殺は出来なかった。

私達の作業地は松本署管内では、里山であり周辺の民地からの飛来も多く誘引数に大きく影響しているものと考える。

この調査から平均して見ると5月から8月の間に多くの誘引があり被災した時期と一致している事がわかる。

## 2. 生息調査の方法

餌については、砂糖300g、酒1.8ℓ、酢200ccを混合し設置したが、蜂以外に蛾が相当数あった。

稲核担当区に設置した餌は、砂糖などの濃度別に行なったが蜂の誘引には関係がないと聞いている。

蜂の種類は大半が、キロススメバチであったが、中にはオオスズメバチや、オオナガバチ（トックリバチ）も相当数誘引されていた。

容器の設置については、1升瓶やビール瓶は雨水等がはいったり、ビンに色がついているため観察が出来にくく、また入口が狭いため蜂の入りが悪かったり、ビンが倒れたりしてよい結果が得られなかった。

これらを反省して今年度は次の3点を改善し調査をした。

1. 春、早く設置し女王蜂の誘引により営巣の減少

2. 餌についての検討

3. 容器の改良

(1)については、春、蜂の活動が始まる4月下旬から設置し5月から6月に女王蜂を誘引することによって営巣の減少を図った。

このことによって、作業中に見た営巣を平成2年度と比較した場合、2年度38個に対し、平成3年度は13個と約3分の1に減少しており、これは明らかに春、容器を設置した効果が出ているものと思う。

水沢山団地で5月から6月に捕殺した女王蜂は649匹であった。

(2)については、平成2年度の一年間班員がそれぞれの立場から蜂の行動を観察する中からヒントを得た。それは晩秋にブドウ、リンゴの成熟したものに群

をなして餌を取っている状態から今年度は、砂糖等に自家製のリンゴジュースを混合して設置した。餌の補充については見回りの際、蜂や蛾を取り除き少なくなった餌を補充したところ非常に良い結果を見た。

特に春、女王蜂の誘引捕殺が出来て好結果を見たが、7月以降の誘引捕殺は全てが働き蜂で営巣の減少には効果ないものと思われる。

(3)については、従来の1升瓶やビール瓶だと瓶の中に雨水がはいること、設置が不安定で倒れたりしたこと、地面や切り株へ設置した場合、蟻がはいったり調査が困難あった点からジュースの空容器を使用した。

使用当初は小角材に細工を加え設置したが観察に苦勞したので、今年度は木の枝や、防護柵の網に吊り下げた。

ジュースの空容器を使用したことによって、①雨水の防止、②透明なため観察しやすい、③木や防護柵へ吊り下げられ手間がからない、また、入口を以前より大きくしたため蜂がはいりやすくなったなど、取扱いが簡単で管理上、廃物利用であるので経済的にも効果があった。

#### おわりに

この結果から今回の調査では比較的大きな蜂が入っていたが、小さな蜂の誘引が少ない点が今後の問題である。

自然の摂理に反するが蜂による災害を防ぐためには、女王蜂の営巣初期である春から容器を設置することによって、女王蜂を誘引捕殺し営巣の減少を図ることにより、比較的災害が多いとされている下刈作業において、今年度は蜂さされによる災害もなく、目標とする安全第一で効率的な作業が出来たので、今後とも安全作業が出来るように、この誘引成果と共に防蜂網等保護具の完全着用に努め蜂さされ災害の防止に役立てていきたいと考えている。